

Y09b 岡山天文博物館と岡山天体物理観測所の連携による教育普及活動

栗野諭美(岡山天文博物館)、吉田道利、戸田博之(国立天文台岡山天体物理観測所)、岡山天文博物館、国立天文台岡山天体物理観測所

岡山天文博物館と岡山天体物理観測所は、昭和35年に岡山県南西部の鴨方町と矢掛町にまたがる竹林寺山の一角に設置された。観測所は、国内有数の研究機関として現在も精力的に活躍中であるとともに、近々アジア最大の3.8m望遠鏡が設置されることでも注目を集めている。博物館はプラネタリウムや太陽観測用望遠鏡を備えた浅口市直営の施設で、天文学一般の教育普及および観測所のビジターセンター的な役割も担っている。今年の3月には、国立天文台が開発した4次元デジタル宇宙シアターが常設され、一般上映がスタートした。

これらの通常の普及活動に加えて、ここ近年、広報・教育普及活動の一環として、特別公開や観望会をはじめ、学校等の見学利用、一般向け講座、そのほかの特別事業なども連携して行っている。毎年夏休みに開催される特別公開では、188cm望遠鏡の操作や主鏡見学をはじめ、ミニ講演会や、工作、ビンゴゲームなど子供向けのイベントも開催され、大人から子どもまで1000人近い参加者が訪れる。春と秋に開催される観望会では、プラネタリウムによる星空解説や188cm望遠鏡で実際に天体を観望していただくことで、好評の声をいただいている。

また地元や県内で開催されるイベントにも積極的に参加し、『全国生涯学習フェスティバル まなびピア岡山2007』では、岡山発信の最新の研究をテーマに、講演会『宇宙最前線 in おかやま』とサイエンスカフェを開催した。

今秋には、天文台のある街をアピールし、美しい星空がまだ残っていることを再認識してもらうことを目的に、初の試みとして『星月夜のコンサート ~ライトダウン in あさくち~』を開催する。さらに世界天文年(2009年)、国民文化祭(2010年岡山県で開催)に続き、観測所&博物館50周年(2010年)、新天文台完成予定(2012年)と、これから期待される関連事業についても検討中である。本講演では、これらの活動について詳しく紹介する。